3・11 福島へ!

全学連(斎藤郁真委員長) 書記局通信

2012年２月23日
№６

Tel 050-3036-6464
mail_cn001@zengakuren.jp
http://www.zengakuren.jp/

斎藤委員長の３・１１結集アピール

学生こそ未来の社会を背負う存在だ!

全国学生のみなさんに３・11集会への参加を訴えます。

ついに稼働原発はあと二基になりました。去年の３・１１以来、菅政権も野田政権も色合いの違いこそあれ、一年間にわたって原発の再稼働を策動し続けてきました。それにもかかわらず、この結果です。

私たちはずっと、「反対しても何も変わらない」「だから常に今あるシステムの中でなんとかするしかない」と思わされてきました。でも、今やそれはウソであることが明らかになりました。そう思わせることそのものがひとつの政策だったのでしょう。私たちが団結し、本気で行動すれば、この社会全体を覆うほどに巨大に見えるあの「原子力ムラ」すら叩きのめすことができる！

この現実に打ちのめされて「原子力ムラ」の連中は本音をむきだしにして私たちに迫ってきています。野田首相は、今年一月の施政方針演説で、原発の再稼働について①経済への影響②環境保護③安全保障の観点を考慮して決めなければならないと述べています。いったい「誰のための経済、環境、安全」なのでしょうか？　福島県では15万人もの人が避難生活を送っており、２度と故郷に帰れない人もきっといます。政府から払われた補償金は妊婦・子どもで40万円、それ以外で８万円とわずかであり、とてもじゃありませんが生活を立て直すことはできません。福島の人たちは「私たちの命は40万円・８万円か！」と怒っています。

原子力ムラの連中はまったく反省していません。それは、大学においても同じです。私の法政大学では、大学当局は裁判所に申し立てを行い、受験期間において、「営業権」を掲げて法政大学から半径２００m以内での学生の情宣活動を禁止しました。事実上の憲法停止の言論弾圧です。また、福島大学においても、学内での福島大生の反原発の行動を抑圧しながら、去年のＪＡＥＡ（日本原子力研究開発機構）との提携にあきたらず、今年の２月13日に放射線医学総合研究所と「放射線の人体への影響を評価」するために提携を結んでいます。完全に福島大生や福島県民をモルモットにする気です。その一方、福島大学副学長・清水修二は３・１１「原発いらない！福島県民大集会」の呼びかけ人代表でもあります。彼は福島大生の３・１１への参加を訴える学内ポスターをはがしながら、「『闘う学生自治会を建設しよう』と言っている人たちには協力しない」と言いました。

これらのことは何を示しているでしょうか？　彼らは、学生がキャンパスから立ち上がり、行動を開始することを恐れているのです。原発の再稼働が多くの人の一筆の署名や一回のデモ、ちょっとした抗議の声の積み重ねによって阻止されてきたように、「放射能安全キャンペーン」「原発安全神話」を生産する大学の足下から学生が立ち上がれば、原発をつくることなどできないからです。

私たち学生は次の社会を背負う存在です。今日の私たちのあり方こそが、未来の社会のあり方になります。今、私たち一人一人が一歩踏み出し、今日を変えれば、明日が変わり、未来が変わっていく。私たち学生はそういう可能性を持った存在です。

３月11日、全国から労働者・学生・市民の大結集で、フクシマの怒りを共有し、原発の再稼働を阻止し、廃炉へと追い込む闘いに学生こそが立とう！

原発再稼働を絶対に阻止しよう！

ストレステスト「意見聴取会」弾劾！

２月２０日、経産省にてストレステストの「意見聴取会」が行われた。これは前回の聴取会をうけて「大飯原発再稼働は妥当」との判断を原子力安全・保安院が下したことからも明らかなように、原発再稼働を強行するための儀式そのものである。事実、出席している委員の９割が原発推進の御用学者であり、さらに司会の岡本孝司（東大教授）は原発メーカーからカネを貰っている「原子力ムラ」の住人そのものである。断じて許すことはできない。

しかもこの「意見聴取会」は、傍聴者を閉め出して密室で行われている。このような「意見聴取会」に対して、労働者・学生・市民が集まって経産省を包囲し、全学連も斎藤委員長を先頭に駆けつけ、経産省・原子力安全保安院への弾劾行動をやり抜いた。

全学連福島現地行動隊からの訴え

広島大学の学生です。２２日に野菜カフェ「はもる」、市民放射能測定所、高放射線量で有名な福島市渡利地区、大波地区、飯舘村にわざわざ案内してもらいました。

飯舘村が衝撃的でした。山の中にあり、家がぽつぽつ立っているのですが、ほとんど人がおらず、「無人の村」のようでした。テレビで、主のいなくなった牛舎や牧場の映像が流されていましたが、実際目で見ると、言葉をなくします。田畑も荒れており、チェルノブイリで見た映像を思い出してしまいました。

人間が生きるための手段、生活の根底から破壊した原発事故を起こした東電・政府に対し、ここまでやっておいてまだ原発再稼働するのか、何とも表現し難い怒りが沸いてきます。

野菜カフェ「はもる」では、福島のお母さんたちが交代で店番をして、その間、ひっきりなしにお客さん(お母さんたち)が来て長居して、話をしていました。放射能から子どもを守るための相談しやすい、入りやすい拠点のようでした。神谷（広島大の御用学者）や広島大の反原発運動の話をすると、「若い学生が頑張ってくれてるのは嬉しい」と言っていました。お母さんたちは低線量被曝に危機感を持っていました。

市民放射能測定所(CAMS)では、１回3000円でセシウム134、137、ヨウ素131を測定できる場所です。今日は、定休日で測定自体はやってなかったのですが、各メーカーの１L牛乳の測定結果の公表も行っており、一番高かったのがメグミルクの６bq/kgで、福島産の牛乳より高かったので驚きました。

あと放射能関連で市民の間で話題になっているのが、南相馬の「黒い粉」。道路や階段に、明らかに土とは違う黒い粉がサラサラ～っと落ちているそうなのですが、その黒い粉の線量を計測すると、α線が断トツに高いそう。まだ神戸大の山内教授が解析中らしいのですが、α線からプルトニウムかと言われているそうです。

フクシマの怒りと団結し、3月11日は郡山へ全国学生は駆けつけよう!！

「再稼働阻止！全原発廃炉」に向けて、みんなで参加しよう！

原発いらない！3/11県民集会

【要項】　３月11日（日）福島県郡山市・開成山球場

13:00～オープニングコンサート　15:00～デモ

※夕方から全国学生集会やります！